

東京新聞

夕刊

中日新聞東京本社
東京都千代田区幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211

貸ビル・フーズ事業・保険代理業

雨宮商事株式会社

新宿 西口
141 雨宮ビル
☎03-3342-0141

紙面から

新連載小説 **ウォーターゲーム**

日中韓あるべき姿を聞く
「時代の危機」歌人シンポジウム

7 3 5

日系人監督が就任会見 4

ドジャース新監督に就任した、沖縄生まれのロバート氏は「とても誇らしい」。(共同)



ラジオ3 文化5

オッサン政治の壁



怒る女性議員

参政権70年 都内でシンポ

「オッサン政治」は、男性ばかりが幅を利かす今の政治に物申さず、フェイスブック上のグループ「全日本おばちゃん党」を立ち上げた谷口真由美大阪国際大准教授が使い始めた言葉。女性たちのうんざりした気持ちに合致して共感を呼び、「怒れる女子会」でも言葉になっている。

よ」とヤジを飛ばされた。「私が男だったら飛ばさなかっただろう。いつも質問席に立つだけで男性議員からヤジの嵐。生意気な女だ」という思いが突き刺さる」と女性蔑視の空気を語った。

上智大学(千代田区)で、学生や研究者ら約二百人が参加して開かれたシンポジウム「女性のリーダーシップで社会を変える」。与野党の女性国会議員二人が顔をそろえた。

「おしりや胸を触るのは当たり前。お酒が入ると、下着見せたら一票やると平気で言う。女性候補者がいかにみじめか思い知った」

自民党の野田聖子衆院議員(写真⑤)は、二十九歳で初めて国政選挙に出て落選後、次の選挙に向けて選挙区回りをしていた時に男性有権者から受けたセクハラの数々を打ち明けた。当時、同党の衆院議員に女性は無かった。

初入閣した時は、男性先輩議員にすれ違いざま「スカートをはいていると大臣

になれるんだな」と言われ、凍り付いた。「いい子にしていれば引張ってくれるが、かわいくないことをするとたたく。『背伸びはいいけど、おれと肩を並べちゃいけないぜ、ベイビ』」みたいな」

民主党の辻元清美衆院議員(同⑥)は、五月に安全保障関連法の審議で安倍晋三首相から「早く質問しろ



「女性のリーダーシップで社会を変える」と題し、上智大で開かれたシンポジウム(1日、東京都千代田区で(川上智世撮影))

少数でも女性議員がいることで、政策の本身は変わる。民主党の蓮舂参院議員(同⑦)は、児童虐待防止法の制定に取り組んだ時、男性議員がなかなか理解を示さなかったと話した。「『しついでしょ』と。しついでで内臓破裂しますか」米国ではヒラリー・クリントンさんが大統領選の有力候補となっている。日本で女性総理は誕生するかどうかという質問に、野田さんは、九月の自民党総裁選で告示直前まで立候補を模索した経緯を振り返り「不可能ではない」という感触を得た」と答えた。次回への意欲も語り、会場を沸かせた。

下着見せたら1票やる
スカートはいてると大臣になれるんだな

終戦後に衆院議員選挙法が改正され、女性が参政権を得てから今年17日で70年を迎える。だが、いまだに国会や地方議会の女性議員の割合は、国際的に最低レベルの1割程度。男性中心の政治がもたらす問題を語り合うイベントが1日夜、東京都内の2カ所であり、女性議員たちが独善的で上から目線の「オッサン政治」の実態を報告した。(柏崎智子、石原真樹)

質問席に立つとヤジの嵐

地方でも

渋谷区の東京ウイメンズクラブでは、男性中心の政治から脱却を呼び掛ける市民団体が「怒れる大女子会2015」を開き、約百人が参加した。四月の統一選で初当選した女性議員らが地方議会の現状を語った。



自身がシングルマザーの太田安由美・高松市議(写真④)は、つらい思いをしている女性を助けようと議員になったが、地域や議会では「女は政治に口を挟むな」という圧力が強く、ストレスで髪の毛が抜けたという。委員会の司会をしながら居眠りする男性

議員もいて、勘弁してほしい」各地の女性たちが独自に「怒れる女子会」を開く動きが広がり、その数は百近くに上った。愛媛県の女性市議は「二十年続けた議会に女性を送る活動が途絶えそうだったが、女子会で新たな風が吹き込まれた。来年の参院選には女性候補を立てたい」と発言した。

女は政治に口を挟むな

子どもが小さいのに